平成３０年９月

平成３０年度全国学力学習状況調査の結果　　京都市立明徳小学校

４月１７日に，本校６年生９３名を対象に実施された「全国学力調査」について，結果がまとまりました。今年度は，国語と算数の２教科とともに３年ぶりに理科のテストも実施されました。同時に，家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており，生活習慣と学力との関係など，本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語科・算数科・理科）

国語・算数・理科ともに全国よりも京都府の方が正答率は高いです。本校においては，国語Ａ・Ｂ，ともに全国および京都府の正答率を上回りました。理科は，全国を上回り，京都府と同じ正答率となっています。算数Ａ・Ｂについては，京都府および全国より正答率が下回るという結果となりました。以前から，国語科より算数科の方が弱い傾向がありますので，学年の系統性をふまえた継続的な取組が必要と考えられます。

国語科より

国語Ａ・Ｂともに，学習指導要領のどの領域でも京都府よりも正答率は高いのですが，話すこと・聞くことに関わる内容は，もっとも京都府の正答率に近いため弱さが見られます。また，記述式の解答に対する無答率が高いというのも大きな特徴となっています。

書くことに対する苦手意識は高くないので，答案に対して，条件を与えられた中での解答に苦手意識があるように思われます。字数を制限するとか，大切にしたい言葉を使って記述するなどの経験が弱いのではないかと思われます。

また，言語についての知識・理解の定着率もあまり高くはありません。言語の習得にかかわって，徹底した反復練習なども時には必要であると考えます。また，家庭学習と授業との連動を意識して取り組むことで，より安定した力の発揮につながると考えます。

算数科より

算数Ａ・Ｂともに，全国の正答率を下回っています。京都府を算数Ａでは４ポイント，算数Ｂでは，３ポイント下回る結果となりました。

算数Ａ・Ｂとも「量と測定」については，全国は上回っていますが，すべての領域において，京都府を上回ることはできていません。特に，「数と計算」に関わっては，算数Ａで7.9ポイント，算数Ｂでは，5.4ポイント，京都府を下回る結果となりました。

「数と計算」については，算数Ａの問題の傾向が変わったことも要因かもしれません。基本的な計算問題というより，算数Ｂのような課題の提示の仕方で基礎基本の定着を図るという，根拠を明確にするものや複数正答を選ぶものなどとなっていました。この設問の方法が本校の児童の正答率に影響を与えたと考えられます。

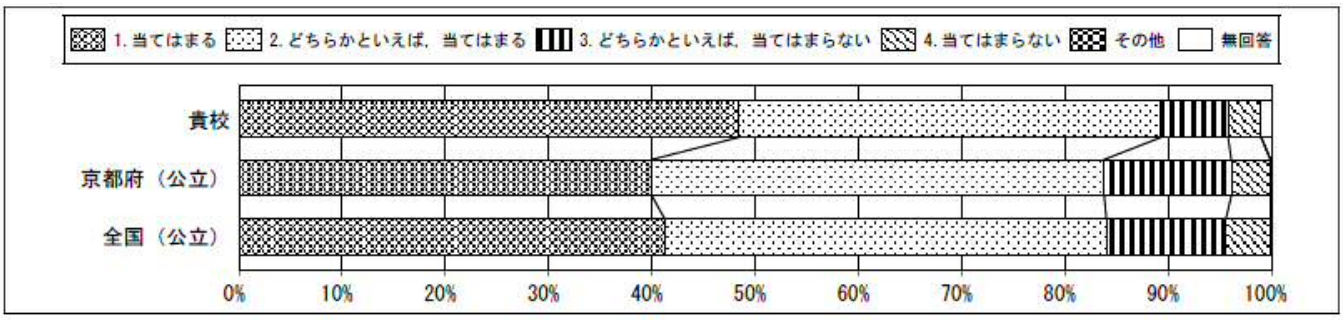
国語科と同じように，記述式の問題に対する無答率が高く，今回のように，根拠を示しながら記述する問題などへの苦手意識が感じられます。

理科より

３年ぶりの理科の調査ですが，全国の正答率より高く，京都府の正答率と同じとなっています。知識に関する問題はわずか京都府より下回っていますが，全国よりも２ポイント高い状況です。活用に関しては，全国や京都府よりも正答率が高くなっています。評価の観点からも，観察・実験の技能や科学的な思考・表現は京都府よりも正答率が上回っていますが，知識・理解は京都府より下回っています。知識・理解よりも，獲得した知識を活用して，実験や観察を行ったり，実験や観察から話し合いをして，結果を導き出したりする能力の方が高いことを示しています。本校が力を入れて取り組んでいる主体的に思考判断する力の育成や，話す・聞く力の育成が結果につながっていると思われます。そこに，くり返しの学習などを通して，知識理解を定着させることで，より成果が発揮できると思われます。

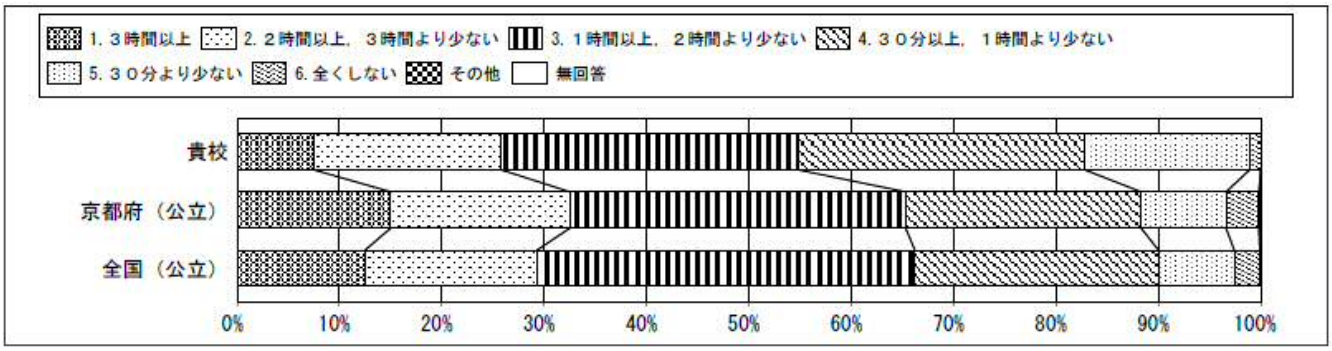
児童質問紙調査から

Ｑ　自分には，よいところがあると思いますか。



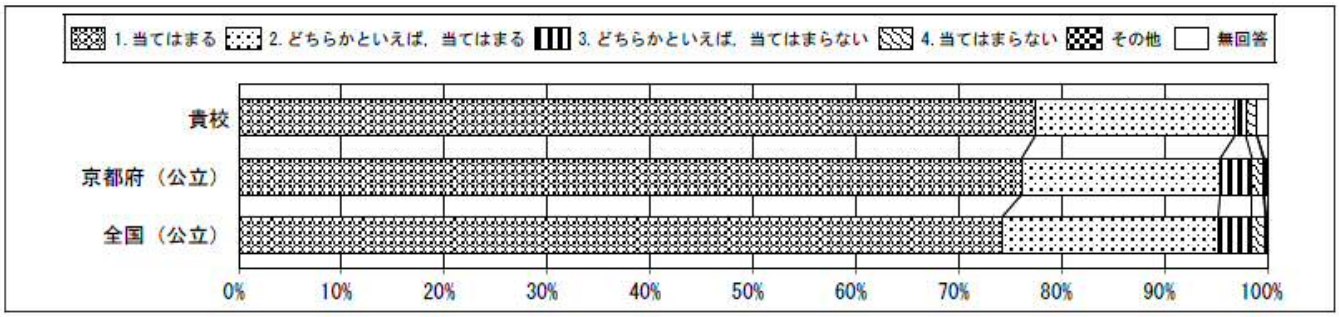
「当てはまる」「どちらかといえば，当てはまる」という割合が全国平均より上回っています。自己肯定感が高いことを示していると思われます。

Ｑ　学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしていますか。（塾・家庭教師含む）

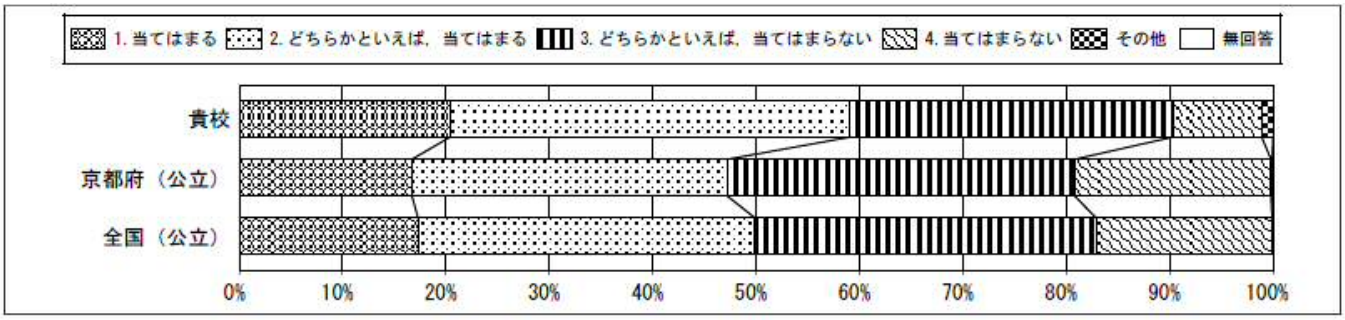


本校児童では，「３．１時間以上，２時間より少ない」「４．３０分以上，１時間より少ない」に半数以上の児童が当てはまるとしています。「５．３０分より少ない」という割合が多いことからも，全体的に，家庭での学習時間が少ない傾向が見受けられます。

Ｑ　人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



Ｑ　地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。



上記の２つの質問は，「１．当てはまる」「２．どちらかといえば，当てはまる」の割合が多くなっています。このことから，人とのつながりや社会に貢献しようとする意識が高いことを示していると考えます。

児童質問紙・国語科・算数科・理科の分析から

国語科・算数科・理科の分析から，今年度の傾向として，記述式に関わる設問に対する無答率が高いという傾向が見受けられました。アンケート調査からでは，調査問題に関わる解答時間は，「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答する児童が多かったところから，記述式に対して，あきらめてしまって最後まで粘り強く問題に取り組めていない，あるいは，記述式ということに対する苦手意識が強く働いているのではないかと考えます。また，「算数の問題の解き方が分からないときは，諦めずにいろいろな方法を考えますか」という調査項目に対して，「どちらかといえば，当てはまらない」「当てはまらない」と回答する割合が多くなっています。その傾向も，算数科の正答率につながっているととらえられます。「理科の勉強は好きですか」という調査項目に，好きと答えている児童の割合は多いですが，「算数の勉強は好きですか」という調査項目では，その割合は低くなっています。子どもたちの興味関心によって学習の成果はずいぶん影響されると考えられます。興味関心が高くなると，子どもたちの正答率も高まるのではないかと思います。粘り強く最後まであきらめずに取り組もうとする姿を高められるように，まずは，興味関心を抱く授業や学習の仕方を工夫していかなければならないと考えます。また，学習の意義や効果を実感する中でも，興味関心は高まるかと思います。生き方に関わる意識として，キャリア教育の視点での取組を積極的に取り入れていくことで，学習効果を上げていきたいと考えています。

記述に関わる課題として，書くことそのものに対する苦手意識は高くないので，字数制限や決められた時間，与えられている言葉などを使用してという条件がつく中での書くという取組に苦手意識が大きいのではないかと考えます。日頃の学習の中で，決められた字数の中で自分の思いや考えを表現する機会や与えられた言葉を使って思いや考えを表現するなどの取組を重視することが，課題に対する自信となり，最後まであきらめずに取り組む粘り強さにつながり，学力につながってくると考えています。

また，家庭学習の時間が少ないところからも，基礎基本の知識理解が十分安定していないのではないかと思われます。学校の授業と家庭学習との連動をますます意識して取組を進めていきたいと思います。また，家庭での確実な学習時間の確保も必要かと思います。決められた課題を取り組むだけでなく，自ら計画を立て，自分の学習成果を確かめながら，工夫して自主的に取り組む姿を育成していく必要があります。自主学習の取組を充実させるなどの工夫をしながら，主体的に自立した学習ができるように取組の工夫を図っていきたいと思います。

保護者の皆様へ

各教科における本校児童の課題につきましては，ジョイントプログラム等に関する分析等も行いながら，より一層の授業改善に努めてまいりたいと思います。また，家庭と学校との学習面に関する連携も一層深められるように，工夫していきたいと思います。家庭学習に関わって，課題の出し方や学習の方法など，子どもたちに明確に提示をしながら，家庭での学習が充実できるように，しっかりと定着できるように，取組を工夫していきます。

本校では，話す・聞く力の育成を核とした授業研究をすすめています。子どもたちの話し合い活動が少しずつ充実するとともに，話し合いのテーマに沿って，建設的な話し合いができるようになってきました。主体的に学習に取り組む姿も高まってきています。学校教育活動すべての中で，子どもたちの主体性を大切にしながら，話し合いの時間を確保し，充実した取組を展開していきたいと考え，授業研究や行事の取組，児童会活動やたてわり活動などの場の設定や活動内容など検討しながら取組をすすめています。少しずつですが，子どもたちが自主的に思考し，判断して，表現するようになってきました。いろいろな場面で子どもたちが活躍する姿をご覧いただき，また，ご意見をいただければ幸いです。

今後も，子どもたちの学力向上につながるように取組をすすめていきますので，引き続きご支援，ご協力のほど，どうぞよろしくお願いします。